

タンチョウ博士のお話（第9回）

今回はタンチョウを食べることについての質問です。
質問は、〔中小〕大森瑠花さん、〔南小〕松村垂耶さん、〔長高〕高倉弘人さん、杉野歩未さんなど7名の方からいただきました。

〇ツルは、なぜ恩返しをしたの？

恩に報いる、という言い方がある。短く報恩と言ってもよいし、報恩感謝とか、感恩報謝などという4字熟語もある。しかし、よいことをしてくれた相手に、単にありがとうと言うだけではだめで、相手に感謝し、それにふさわしい行いをして返す、ということが必要なのだ。

ぼくの仲間による恩返しは、だれもが知っている昔話だね。では、なぜ恩返しをしたのか？

そう、猟師に矢を射られたり、仕掛け罠にかかったりして殺されそうになったとき、通りかかった心やさしいヒトに助けられたからだ。

そこで、ツルは若い娘になって、助けたヒトの家に現れる。やがて、自分の羽で美しい布を織り、助けてくれたヒトがそれを高く売って豊かになるのを見とどけて、ツルの姿にもどり飛び去る、と話は進む。

では、ツルはなぜ矢で射られたり、罠でとらえられたりしたか、君は考えたことがある？ 答えは、ペットとして飼うこともあったけれど、多くは食べるためだよ。

今回、ぼくについての質問を寄せてくれた226人のうち、7人が、ぼくを食べたらおいしいですか？と尋ねている。ぼくは仲間の肉を食べたことがないからわからないし、特別天然記念物なので、食べたことのあるヒトも今はいない。



写真① アイヌの人たち（被支配者）が、和人の高官（支配者）へあいさつに来たときの貢物（タンチョウほか）蝦夷国風絵図より

しかし、昔からぼくの仲間が食べられていた証拠に、約5,000年前につくられた貝塚から骨が見つっている。また、江戸時代の書物には、タンチョウはおいしくないと書いてあり、日本に西洋医学を広めた有名なシーボルト先生も、サカナの脂臭くて、外国人の口に合わないとした。けれど、ツルの仲間にはおいしいものもあり、いろいろな料理のレシピも残っている。よく作られたのは、野菜といっしょにツルの肉を入れた「みそ汁」だ。

では、とびきりおいしいわけでもないのに、昔のヒトはなぜぼくらを食べたがったのだろうか。それはぼくらが「めでたい生きもの」と考えられていたからだ。だから縁起をかついで、天皇や殿様はもちろん、一般のヒトもぼくたちを食べたがったのさ。そのうえ、漢方などの薬としても重宝されたから、殿様への貢物としても一級品だったらしい（写真1）。

でもこれが、あとあとぼくたちが大変なことになる原因でもあったのさ。では、大変なことって、いったいなんだろう？

この大変なことは次回に触れることにするが、ともかくどんどん食べられてしまうのだから、とても恩返しなどする気分でなかったのは、確かと言える。（文：正富宏之）